

安全データシート(SDS)  
メチルシクロヘキサン

作成日2013年2月20日  
改定日2015年12月10日  
改定日2018年8月20日

1. 化学品及び会社情報

化学物質等の名称: メチルシクロヘキサン

会社名: 新日本化学工業株式会社  
住所: 千葉県香取郡多古町十余三385-140  
電話番号: 0479-75-2791  
緊急連絡電話番号: 0479-75-2791  
FAX番号: 0479-75-2796

推奨用途及び使用上の制限: 塗料及びインキ希釈用及び洗浄用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
物理化学的危険性	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
物理化学的危険性	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分2
物理化学的危険性	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
物理化学的危険性	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
物理化学的危険性	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
物理化学的危険性	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
物理化学的危険性	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
人健康有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入: 気体)	分類対象外
	急性毒性(吸入: 蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入: 粉じん)	分類対象外
	急性毒性(吸入: ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない	
環境有害性	吸引性呼吸器有害性	区分1
	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	区分1
	オゾン層への有害性	分類できない
絵表示又はシンボル:		



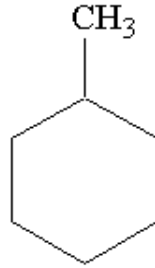
<p><b>注意喚起語:</b></p> <p><b>危険有害性情報:</b></p>	<p>危険</p> <p>引火性の高い液体及び蒸気</p> <p>飲み込むと有害</p> <p>眼刺激</p> <p>生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い</p> <p>眠気及びめまいのおそれ</p> <p>飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ</p> <p>水生生物に非常に強い毒性</p> <p>長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性</p>
<p><b>注意書き:</b></p>	<p><b>【安全対策】</b></p> <p>熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。ー禁煙。</p> <p>静電的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器及び受器を接地、結合すること。</p> <p>防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p> <p>火災を発生しない工具を使用すること。</p> <p>適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>容器を密閉しておくこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p> <p><b>【応急措置】</b></p> <p>取り扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>飲み込んだ場合、口をすすぐこと。</p> <p>飲み込んだ場合、吐かせないこと。</p> <p>皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。</p> <p>吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。</p> <p>眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>漏出物は回収すること。</p> <p>ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること。</p> <p>気分の悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p><b>【保管】</b></p> <p>換気の良い冷所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p> <p>容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。</p> <p><b>【廃棄】</b></p> <p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
<p><b>国・地域情報:</b></p>	<p>情報なし</p>

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質

<p><b>化学名又は一般名:</b></p> <p><b>別名:</b></p>	<p>メチルシクロヘキサン(Methylcyclohexane)</p> <p>(シクロヘキシルメタン)</p>
<p><b>化学式:</b></p>	<p>C<sub>7</sub>H<sub>14</sub> (分子量 98)</p>

化学特性(化学式又は構造式):



CAS番号: 108-87-2  
官報公示整理番号 (3)-2230  
(化審法・安衛法):  
分類に寄与する不純物及び安定 情報なし  
化添加物:  
濃度又は濃度範囲: メチルシクロヘキサン99以上、シクロヘキサン0.1%  
(含有量は実績平均値)

#### 4. 応急措置

吸入した場合:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 身体を毛布などでおい、保温して安静に保つ。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類を緩め呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行う。  意識はないが呼吸している場合、または意識はあるが呼吸困難の場合は酸素吸入が有効である。医師の指導の下に行うのが望ましい。  医師の指示なしに酸素以外の施薬をしたり、被災者に口からものをあたえてはならない。
皮膚に付着した場合:	直ちに汚染された衣服をすべた脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を流水/シャワーと石鹼で洗うこと。 石鹼を使ってよく洗い落とす。 外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は医師の手当てを受ける。
目に入った場合:	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。  眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合:	意識のない場合は、口から何も与えてはいけない。 無理に吐かせないこと。 口の中をよく洗浄し、直ちに医師に診断・手当てを受ける。 嘔吐が自然に起こった時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
予想される急性症状及び遅発性症状:	吸入した場合: めまい。 皮膚に付着した場合: 皮膚の乾燥。 目に入った場合: 発赤。 飲み込んだ場合: 吐き気。
応急措置を必要とする者の保護:	応急措置の際、救助者は自分の皮膚に触れたり、眼に入らぬように注意する。

#### 5. 火災時の措置

消火剤:	小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、一般の泡消火剤 大火災: 散水、噴霧水、一般の泡消火剤
使ってはならない消火剤:	棒状注水
特有の危険有害性:	極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

**特有の消火方法:**

屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。  
引火点が極めて低い:散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備などに散水して冷却する。

**消火を行う者の保護:**

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。  
大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
消火作業は風上から行い、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

---

**6. 漏出時の措置**

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:**

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。  
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

**環境に対する注意事項:**

環境中に放出してはならない。

側溝、下水、河川に流出しないように注意する。

**回収、中和:**

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。  
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。この際、下水側溝に入り込まないように注意する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

**封じ込め及び浄化の方法・機材:**

危険でなければ漏れを止める。

回収作業においては、火花が発生しない安全なシャベル等を利用する。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

**二次災害の防止策:**

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

**7. 取扱い及び保管上の注意**

**取扱い**

**技術的対策:**

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

**局所排気・全体換気:**

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

**安全取扱い注意事項:**

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。  
取り扱い場所で使用する電気機器は、防爆構造とし、機器類は静電気対策を講じる。  
流動によって静電気が発生する場合があるので出し入れの容器にはアースをとる。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

		漏れ、あふれ、飛散を防ぎ、蒸気を発生させない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。
	<b>接触回避:</b>	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	<b>衛生対策:</b>	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取り扱い後はよく手を洗うこと。
<b>保管</b>		
	<b>安全な保管条件:</b>	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙 酸化剤から離して保管すること。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
	<b>適切な技術的対策:</b>	消防法の規定に従った対応をとること。保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。  保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 「10. 安定性及び反応性」を参照。
	<b>混触危険物質:</b>	
	<b>安全な容器包装材料:</b>	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

	<b>許容濃度</b>		
		日本産業衛生学会(2015年版)	400ppm      1600mg/m <sup>3</sup>
		ACGIH(2012年版)	TLV-TWA      400ppm
	<b>設備対策:</b>		防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 室内での取り扱いの場合は発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。  空気中の濃度を許容濃度以下にする。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示すること。
	<b>保護具</b>		
	<b>呼吸器の保護具:</b>		有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器
	<b>手の保護具:</b>		耐油性の保護手袋
	<b>眼の保護具:</b>		ゴーグル型保護眼鏡、防災面
	<b>皮膚及び身体の保護具:</b>		保護長靴、保護服、保護前掛け

## 9. 物理的及び化学的性質

<b>物理的状態、形状、色など:</b>	無色透明液体
<b>臭い:</b>	ガソリン臭
<b>pH:</b>	データなし
<b>融点・凝固点:</b>	-127℃以下
<b>沸点、初留点及び沸騰範囲:</b>	沸点:101℃      初留点:99℃
<b>引火点:</b>	-4℃
<b>爆発範囲:</b>	下限 1.1vol%、上限 6.7vol%
<b>蒸気圧:</b>	6.2 kPa(25℃)
<b>蒸気密度(空気 = 1):</b>	3.4 (空気 = 1)
<b>比重(密度):</b>	0.77g/cm <sup>3</sup> (15℃)

溶解度:	水に不溶 (14mg/L) エタノール、エーテルに可溶。
オクタノール/水分配係数:	log Pow = 4.13
自然発火温度:	309°C
分解温度:	データなし
粘度:	0.732mPa・s(20°C)

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の取り扱い状態で安定である。 流動、攪拌などにより静電気が発生することがある。
危険有害反応可能性:	強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 蒸気密度は空気より重く、低所に滞留して爆発性混合ガスを作りやすい。
避けるべき条件:	高温。
混触危険物質:	強酸化剤。
危険有害な分解生成物:	情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性:	経口:ウサギLDLo: 4000-4500mg/kg <sup>8)</sup> 、ラットLD <sub>50</sub> 値: >3200mg/kg <sup>11)</sup> 及びマウスLD <sub>50</sub> 値: 1200mg/kg <sup>11)</sup> から、最も小さいLD <sub>50</sub> 値を示したマウスのデータに基づき、区分4とした。  経皮:ウサギLD <sub>50</sub> 値: >86700mg/kg <sup>8)</sup> に基づき、区分外とした。  吸入(蒸気): マウスLC <sub>50</sub> (2時間) 値: 36.9mg/L(4時間換算値 26.1mg/L)との記述 <sup>11)</sup> があるが、マウスを用いた試験において7500-10000ppmでは死亡が認められず、10000-12500ppmの2時間ばく露(10000ppmの4時間換算値28.399mg/L)で死亡が認められたとの記述 <sup>10), 40)</sup> から、28.399mg/L(換算値7082ppm)以下では死亡は認められないと判断し、ppm濃度基準値から区分外とした。
皮膚腐食性・刺激性:	具体的な症例報告はないが、皮膚を刺激するとの記述 <sup>14), 6), 13)</sup> 、並びに24時間ばく露ではあるがRTECS (2005)のウサギの皮膚に適用した試験において軽度(mild)な刺激性が認められたとの記述 <sup>11)</sup> から、区分3となるが、JISに従い区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	ウサギの眼に適用した試験において軽度(mild)な刺激性が認められたとの記述 <sup>11)</sup> 、並びに具体的な症例報告はないが、眼を刺激するとの記述 <sup>14), 13)</sup> から、区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性: データなし  皮膚感作性: データなし
生殖細胞変異原性:	データなし
発がん性:	データなし
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器・全身毒性	マウスを用いた吸入ばく露試験において腹臥位が認められたとの記述 <sup>10), 40)</sup> 、並びにウサギを用いた吸入ばく露試験において麻酔作用が認められたとの記述 <sup>10)</sup> 、中枢神経系に影響を与えるとの記述 <sup>14), 6), 12), 13)</sup> から、麻酔作用があると判断し、区分3(麻酔作用)とした。
(単回ばく露):	
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露):	データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性:	炭化水素であって、かつ動粘性率が20°Cで約0.95 mm <sup>2</sup> /s(粘性率/密度 = 0.732(mPas)/0.7694(g/cm <sup>3</sup> ))であり、40°Cでの動粘性率は20.5 mm <sup>2</sup> /s以下であると考えられることから、区分1とした。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	
魚類:	データなし
甲殻類:	オオミジンコ EC50(48hr)=0.33mg/L(環境省生態影響試験、2006)。

藻類:	Pseudokirchneriella subcapitata NOEC(72hr)=0.067mg/L(環境省生態影響試験、2006)
残留性・分解性:	急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1986))
生態蓄積性:	データなし
土壤中の移動性:	データなし
水生環境急性有害性:	上記の結果より、区分1とした。
水生環境慢性有害性:	上記の結果より、区分1とした。
オゾン層への有害性:	データなし

### 13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。</p>
汚染容器及び包装:	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に廃棄すること。</p>

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.:	2296
Proper Shipping Name:	METHYLCYCLOHEXANE
Class:	3
Packing Group:	II
Marine Pollutant:	Not applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.:	2296
Proper Shipping Name:	Methylcyclohexane
Class:	3
Packing Group:	II

#### 国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
消防法	第4類第1石油類（危険等級Ⅱ・非水溶性液体）
容器	危険物の規制に関する規則別表第3の2
容器表示	第4類第1石油類、危険等級Ⅱ、数量、火気厳禁
積載方法	運搬時の容器積み重ね高さは3m以下。運搬時は日光の直射を避けるため、遮光性の被膜で覆わなければならない。
混載禁止	第1類及び第6類の危険物、高圧ガス
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空規制法に従う。

#### 特別の安全対策

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
危険物は当該危険物が転落、又は危険物を収納した運搬容器が落下、転倒もしくは破損しないように積載すること。
タンク車(ローリー)等への充填、積み下ろし時は、平地に停車させ、車止めをし、接地し、タンク車の許容圧以下の圧縮ガスまたはポンプを用いて行う。
ホース脱着時はホース内の残留物の処理を完全に行う。 ローリー、運搬船には所定の標識板、消火設備、災害防止用応急資材を備える。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15. 適用法令

<p><b>労働安全衛生法:</b></p> <p><b>消防法:</b></p> <p><b>化学物質排出把握管理促進法:</b></p> <p><b>毒物劇物取締法:</b></p> <p><b>船舶安全法:</b></p> <p><b>港則法:</b></p> <p><b>航空法:</b></p> <p><b>海洋汚染防止法:</b></p>	<p>名称等を通知すべき有害物                  (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)                  (政令番号 第576号)メチルシクロヘキサン                  (政令番号 第232号)シクロヘキサン                  危険物・引火性の物                  (施行令別表第1第4号)                  第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体                  (法第2条第7項危険物別表第1)                  該当しない                  該当しない                  引火性液体類 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)                  危険物・引火性液体類 (施行規則第12条)                  引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)                  有害液体物質 (Y類) (施行令別表第1)</p>
---	---

16. その他の情報

有害情報、環境影響情報はNITEの区分データを参考・引用した。  
 JIS分類は「JIS Z 7252(2009)」に従った。  
 記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいておりますが、記載のデータや評価に関しては情報提供であり、いかなる保証もなすものではありません。

安全な取り扱い方法を決定する際に、この情報を採用するか否かは使用者がその責任においてお決めください。